

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
22



若者の政治参加を考える

横浜探訪
若者支援の現場へ



ぷちメッセージ

2 兎を追って3 兎を得る

京都市教育委員会 生涯学習部
首席社会教育主事 山本 卓司



中学校長時代に修学旅行とラグビー部の公式戦の決勝戦が重なるといことがありました。3年生を修学旅行に連れていくかどうかをかなり悩みましたが、部員を修学旅行に連れて行き、試合前日に京都に戻るとい決断をしました。

部員が京都に戻る時、残る3年生から「頑張れよ!」と心温まる激励を背にした部員たちは、練習不足にもかかわらず見事優勝を果たしました(修学旅行からのトンボ返りは対戦校含め関係者には驚きのようでした)。修学旅行の日程を終え学校に帰ると、ラグビー部3年生全員が校門で私たちの帰りを待っていました。ラグビー部キャプテンからの優勝報告に皆が感動したあと、出発前と同じように3年生全員で修学旅行の解散式を行うことができました。校長としてあの時の感動は今でも忘れません。修学旅行の成功とラグビー部の優勝の二兎を追ったら、3年生の団結という三兎を得たのです。

「二兎を追う者一兎も得ず」とい諺がありますが、これからの時代、答えは決して一つではありません。若者には自分を信じてチャレンジしてほしいと願っています。

(京都市ユースサービス協会 企画委員)

14

ユースかわら版
「僕の東京日記」を演じます! ほか

12

TOPICS
横浜探訪 若者支援の現場へ ほか

10

ユースワークって何?
〜家庭・学校・働く場と若者たち〜

8

発達障害と私
〜いま、振り返って思うこと〜

7

ねっとわーく
『グチコレ』

3

若者の政治参加を考える



[表紙の花]

ガザニア

キク科の一年草もしくは多年草。原産地は南アフリカ。クンショウギクとも呼ばれる。鮮やかな色合いと絵に描いたような丸い完璧な花が印象的な美しい花。黄色い花などはまるで小さなヒマワリの様にも見える。

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

プラス思考に変える独自の教育「EMS」で
自分を好きになる、
未来が変わる!



中3生対象 オープンスクール& 学校説明会 9/19(土)・10/24(土)

※要電話予約。上記以外でもご相談は随時受付しています。

iPad® miniを生徒全員に配布

学習意欲の向上 学力の定着

※iPadは米Apple Inc.の登録商標です。

通学型

- 毎日通って高校生活を満喫
- 週2~3日マイペースに登校

通信型

・Mobile HighSchool・

- 時間や場所を選ばず学ぶ

転入編入 後期入学受付中!

生徒第一...だから
第一学院高等学校

通信制高校(広域通信・単位制)

〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 烏丸KT第2ビル5F
京都キャンパス TEL 075-371-3007 全国50キャンパス (平成27年4月時点)

www.daiichigakuin.ed.jp 第一学院高校

検索



平成24年4月「第一高等学校グループ」の「ウィザス高等学校」「ウィザス ナビ高等学校」から校名を変更しました。

「18歳から選挙権」を機に

若者の政治参加を考える

選挙権の年齢を現行の20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立、来夏の参院選から本格実施されます。高校生年代でも投票権が生じるので、高校現場でも若者の政治参加意識を高める「主権者教育」の充実が目玉されます。

一方、若者の政治感覚はどうでしょう。近頃は就活、貧困、結婚、育児など若者の社会的環境が厳しいにもかかわらず、政治不審や無関心派が多いようです。



選挙

最近の選挙から若者の投票率を総務省のホームページで調べてみると、昨年暮れの衆院選の抽出調査では若者全体の投票率は20歳で29・72%（男28・60%、女30・88%）、25〜29歳だと35・32%（男34・44%、女36・26%）となり、どちらも女性上位です。平均5歳違くと投票率も5%強く、先輩のリード。ちなみに70歳〜74歳の投票率は72・16%と若者世代の2倍強も高いようです。新しい選挙民（全国で240万人）を加えた来夏の参院選で18〜19歳のニューフェイスの動向が大いに注目されます。

来年から選挙権を得る京都在住の17歳と18歳の男女2人に率直な感想を聞きました。「投票はめんどくさい」「政治が少しも変わらない」といった答えが返ってきました。

①選挙に行きますか？

「面倒くさいし、わざわざ行ってまで投票はしない。ついでにとか、携帯とかで投票できるならするかもしれない」。

②政治に不満はありますか？

「政治は難しいから興味がない。ただ安倍さんが世間から叩かれていて、そんな人で大丈夫かなって心配はある。あと、忙しいのかもしれないけど、政治家の給料が高すぎる」。

③政治に期待することは？
「バブルのようには言わないけど、金銭的に余裕のある時代になってほしい」。
(17歳女性 伏見区)

①選挙に行きますか？

「専門的に学んでいることがあり、それを優先したいので、行かないと思います。正直面倒くさくも感じますし」。

②政治に不満はありますか？

「強いて言うなら、政治家が何をどうしたいのかよく分からない。もっと分かりやすく言ってくれたらいいのに。朝、街頭で聞いたりするけど、話の自身は入ってこない」。

③政治に期待することは？

「全くない、結局何も変わらないと思うから。景気が良くなってきたな〜とか、世の中が変わったら期待するかもしれないけど。例えば政治家がゴロっと交代するとか。結局同じ人でグルグルやってるだけだから」。

(18歳男性 東山区)

「大学のまち」とよばれる京都には、人口の1割に当たる約13・6万人もの若者が住んでいます。その中には約7,000人の留学生も含まれます。

ここでは、諸外国における選挙権年齢や投票率の状況、京都で学ぶ留学生の声を取材しました。

選挙権は世界の約85%の国で18歳以上となっています。投票率も北欧では30歳未満の若者の投票率が80%を超える国もあります。

義務投票制の国もありますが、ベトナムのように義務ではなくても投票率が99%を超える国も存在します。高い投票率はなぜでしょうか？ 京都の留学生に聞きました。

「前回の選挙の時（2011年）、僕はまだ18歳未満だったので選挙に行ったことはありません。でも家族はもちろん、近所の人もみんな選挙に行っていました。地域によっては家族の代理投票が可能で、老人や病人の方は家に投票箱を持ってきてもらい投票することができました。多くの人が参加した方が良いという風潮があるように感じます」（ダン・ヴィエット・チュンさん、ベトナム出身、来日1年目）。

その一方で、このような声も聞きました。「99・51%は本当かどうかわかりません。日本のように公約等が発表されることはなく、候補者の情報が少ないため選びようがなく、誰が当選しても同じという考えを持つ人も

多い」（キム・フーンさん、ベトナム出身、来日2年目）。

「若者の中には十分な教育を受けていない人も多く、きちんと見極めて投票することは難しいと思う。でも選挙で何か変わるかもしれない、という期待感もあります」（ファム・ティ・フーンさん、ベトナム出身、来日5年目）。

他の国ではどうでしょうか？
昨年、初の国民による大統領選挙が行われたトルコ出身の留学生はこう語ります。

「10年くらい前まではトルコでも、投票しても何も変わらないといった考えを持つ人が多かったと思います。しかし、都市計画や教育など自らの生活に密接に結びつく法令が政府により勝手に制定され、自らの意思表示に対する関心が高まり参加する機会も増えたと思います。私も昨年の大統領選には東京まで投票に行きました。トルコの若者は日本の若者より政治に対してより積極的だと感じます」（セレン・チャルックさん、トルコ出身、来日3年目）

政策が自分の生活にいかに密接に関わっているか、また自分の声がどれだけ届くか、どう伝えるかを考えられれば、若者ももっと関心を持てるかもしれません。

編集スタッフ

木林 愛美
岩見 晃宏

若者超会議2015

未来に魅せられた若者達の宴

ivote関西京都エリア副代表 古里政貴

昔、明治維新という大変革の端緒となった「京都」で、2015年3月31日、ivote関西の「若者超会議」が開催され、未来を語る6人の若者たち、共に未来を考える500人の若者たち、それぞれの思いがそこにありました。

テーマはそれぞれ「教育」「農業」「医療」「経済」「社会問題」「政治」の6つ。

登壇者の一人、原田健介氏（NPO法人Youth Create代表、学生団体ivote関西創始者。ネット選挙解禁運動に努める）は、「政治」というテーマの下で「あなたの街を知る、考える」というミニフェストを提示しました。戦後人口増加のピークは過ぎ、社会の前提が変わっていく中で、民主主義の主役である市民一人ひとりが政治の主導権を握るためにも、自分の街を知り、自分なりの考えを持つことから、主体的に「政治」に関わる。「若者」「街」「政治」の三つが絡まっていくからこそ面白い街ができていく、と強調されました。そんな原田氏に一人の若者が質問します。

「そもそも政治に興味のない周りの友人たちに、興味を持たせるためにはどうしたらよいのでしょうか。その問いに対し原田氏は「実は20代の過半数は政治に『興味はある』と言っている。しかしながら、選挙に行くのは3割くらいです」全く政治に興味のない若者にアプローチするのは難しい。しかし、政治は難しい、また恥ずかしいからという若者達に対して、いか

に政治や選挙について考える機会を提供しているかが大切だと思います」と返答しました。5時間にも及ぶ会議は、白熱したまま終了を迎えました。

「若者超会議」を主催したivote関西という団体は、「若者の投票率向上」「若者の政治的無関心打破」などの理念を掲げ活動しています。若者が持つ政治に対しての堅さやとつきにくさといったイメージを払拭し、政治をもっと身近で面白いものだと感じてもらえるように、イベントなどを通じてメッセージを発信し、若者の行動を促しています。活動メンバーは主に京都に存在する各大学の大学生で構成されています。

この「若者超会議」は、翌4月に行われる京都市議会・府議会選挙を含めた統一地方選挙を意識して行われました。京都府や京都市などの地方自治体が行う地方行政は、京都に生活する人々にとって大変身近なものです。加えて、京都市は人口の約10%を大学生が占めるといって、全国でも最も大学生の人口比が大きい街です。国政選挙とはまた一味違った京都市議会・府議会議員選挙において、若者たちが興味関心を持って投票に行ってもらえるようにとの強い思いが根底にありました。

しかしながら、この4月の選挙における投票率は結果的に戦後最低でした。イベントは成功

したかもしれないが、私たちの団体は社会に何ら価値を提供できていないというのが現実であります。

ですが、ivote関西の動きが止まるなんてことはありません。4月の反省も踏まえて、これからも動きをどんどん加速させていきます！

なんとといっても今年は「18歳選挙権」が実現しました。高校の教育現場では、生徒たちに選挙についてどう教えてよいものかと非常に悪戦苦闘の日々だとの声もあります。そこで、僕たちが実施するのが「教育ivote」というものです。この事業は、わたしたちが実際の教育現場を訪れ、主権者教育に関する多種多様な授業を行うことで、中高生の政治参画意識の向上を高めるためのものです。具体的には、実際の投票箱を使用した模範投票を実施しており、今後も活動を広げてまいります。



[主な国の現状]

国名	選挙権年齢	投票率	備考
ベトナム	18歳	99.51% (2012年)	
オーストラリア	18歳	93.23% (2013年)	義務投票制／罰則あり：罰金
イタリア	18歳	75.19% (2013年)	義務投票制
ドイツ	18歳	71.55% (2013年)	
アメリカ	18歳	67.95% (2014年)	
インド	18歳	66.40% (2014年)	
イギリス	18歳	66.10% (2015年)	
フランス	18歳	55.40% (2012年)	
韓国	19歳	54.26% (2014年)	
日本	20歳	52.66% (2014年)	

若者が政治への信頼を育む機会はどれだけあるのか？

シチズンシップ共育企画代表 川中大輔



若者の政治参加を考える前に、まず自分のことを考えてみて欲しい。あなたは、政治に関わる意味や投票に行く意味をどのように感じているだろうか。私が問いかけたのは、理解ではなく感じ方である。もし、あなたが、或いはあなたの周りの方々が、その意味を実感できていないのであれば、それはなぜだろうか。政治参加にあたっては、各種情勢やそれに応ずる政策について理解して考えることが求められ、その深度をあげて意見表明や熟議、創造的調停の過程に踏み出せば、コミュニケーションコストは増すばかりである。面倒で煩わしいことは否めない。政治参加や投票行動の有意性を減じている「正体」を問題にせず、若者の政治参加を嘆くのは筋違いではないだろうか。

一人ひとりの市民の意見に耳を傾けて応答し、必要であれば代弁／実現しようとする態度が意思決定者から感じられなければ、意思決定者を選ぶことも意思決定過程に関与しなくなるのは当然である。そも

そも交わったことすらなければ、尚更だろう。若者世代の政治制度への不信感の高まりは、欧州委員会白書「欧州の若者のための新たな一押し」(2001年)でも指摘されているが、日本学術会議「提言 各種選挙における低投票率への対応策」(2014年)でも「政治への信頼感」と「政治的有効性感覚」の低さが低投票率の原因として指摘されている。

だからこそ、例えばフィンランドのユースワークでは、身近な小さな事柄から参画の機会を設け、「意思決定者との対話」の経験を重視して、シチズンシップ涵養を進めている。日本では、どれだけ「私」の声を聴いてもらえたという実感を持って大人になるのだろうか。内閣府『平成25年度わが国と諸外国の若者の意識に関する調査』(2014年)での「将来の国や地域の担い手として政策決定に参加したい」との質問に対し、「そう思う(7.7%)」「どちらかと言えばそう思う(27.7%)」という回答は、比較七カ国中で最も

低い。既に政治に参加している若者の経験に耳を澄ましながら、多様な層の若者に対して、自らの影響力を感じられる参画機会の拡充を図ることが求められている。

アリストテレスは『政治学』の中で、政治とは「人々が生きるために生じたのであるが、彼らがよく生きるために存在するものである」と述べている。私たちが「よく生きる」ために、本当に何が必要か。その必要を充たすための方法は何か。その方法の内、いわゆる政治と関わるものが何であり、意思決定者などのように対話して実現させていくか。一見迂遠なようだが、若者がこうした問いと向き合い、活動していく場を地道に設けていくことが若者と政治のつながりの回復の道ではないだろうか。

■プロフィール

川中大輔 (かわなかだいすけ)
兵庫県生まれ。関西学院大学社会学部卒。立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 修士課程修了。2003 年にシチズンシップ共育企画を設立し、参加型社会の実現を目指して、「市民としての意識と行動力」を育む学びの場づくりに取り組んでいる。

おひろちゃんへ

『グチコレ』

●ミッション

なかなか愚痴や弱音を吐きだせない世の中になってきています。私たちは、そんな愚痴を吐き出せるきっかけを作っています。

●代表者

『グチコレ』代表

黒瀬英世



●設立年月日

2012年12月に始めたこの活動は、浄土真宗本願寺派が一般への情報発信を目的に開設したホームページ「他力本願.net」のコンテンツの一つとして企画されたもの。「グチコレ」とは「愚痴コレクション」の略で、龍谷大学大学院実践真宗学研究科の学生らが、実際に街頭や飲食店などに出向いて愚痴を聞き、ホームページ上で一言コメントと共に掲載しています。

●わたしたちの活動

仏教でいう「愚痴」は、108の煩惱の根源のひとつ「根本煩惱(三毒)」と

考えられていて、人にはあつて当たり前のもの。愚痴を吐き出すなという方が難しいことです。愚痴は人によつてさまざまです。が、そのほとんどが人間関係!「上司とつまみ食いかな」「彼女ができない」などもあれば、話を聞くうちに深刻になっていくこともあります。

私たちの活動は、ただそれを聴くことです。問題解決を目的とするのではなく、その人の想いに寄り添い、受け止めます。学校でも職場でも安心して愚痴がいただける場所が少なくなっています。グチコレは安心して本音を話せる場所を提供しています。愚痴は悪口や弱音というようにネガティブに捉えられ、愚痴をいわずに頑張ることが美德とされがちです。しかし、ここでは愚痴を本音と向き合うポジティブなことで捉えて、気軽に愚痴をいえる社会を作っていきたいと考えています。

今は不定期に週1回くらい、3人以上でJR京都駅前の街頭や飲食店などで店開きしています。もしも見かけたら、気軽に愚痴を吐き出しにきてください。また、私たちは出張グチコレ先

や活動に賛同してくださる仲間を募集しています。これまで京都市ユースサービス協会のユースシンポジウムや、南青少年活動センター、右京区役所などで出張グチコレを行ってきました。活動に関心を持ってくださった方は、ぜひご連絡ください。

(編集スタッフ) 寺田純子



e-mail r.guchicollection@gmail.com

HP <http://tarikihongwan.net/collection>

発達障害と私 ～いま、振り返って思うこと～

広汎性発達障害とは

コミュニケーション能力や社会性に関連する脳の領域に関係する発達障害の総称です。冗談や皮肉の意味がわからず、言葉をそのまま受け止めてしまう・相手の気持ちを考えられず、言うてはいけないことも言うてしまう・話し方が独特であり、ですます調や抑揚のない話し方をする・言語の発達が遅い（または失語）がみられるなどの特徴があります。広汎性発達障害の原因は明らかになっていませんが、遺伝や染色体異常などの生物学的な異常によって発生すると考えられています。育て方や本人の怠慢などが原因ではありません。（出典：「発達障害療育の糸口（<http://dditoguchi.jp/>）」より）

この夏思い切って
東山青少年活動センター
の演劇ビギナーズユニットに初
出演しました。はじめは大きな声
が出なかったけれど、後半は大きな声
が出るようになり、演劇が
楽しくなってきました。



私は今、人と話すときにどうしたらよいかわからない時があります。小学生の時は非常に活発でした。しかし、時折り人の気持ちが読めない場面、例えば、人が傷つくような言葉を何回も言うてしまうことがありました。そのたびに、学校の先生や親に注意されました。でも止めようとしてなかなか止めることができませんでした。中学校に入ったから、今までのように人を傷つけてばかりでは、いけないと考えました。それで、私は人と話さないようになり、小学校の同級生から、「なんで中学校に入っで話さなくなったの？」と聞かれました。その理由をうまく話すことができない自分が嫌になりました。高校2年生のあたりから、人と話さなくなる自分を変えたいと思うようになり、自分の今までの事情を知る人がいない地域に移住しようと思いました。それから受験勉強を始めて、第一志望の大学に入学することができました。また、テレビで、発達障害の特集を見て、「私も自分はいかなるかな」と思いました。大学1年生の時には、自分を変えようとしたものの、高校まで人と話すことができなかったもので、サークルに入ることも恐怖心からできませんでした。授業に出る回数も少なくなりました。その頃に、京都市発達障害者支援センター「かがやき」を知り、利用したいと思いました。「かがやき」を利用するために、精神科に行つて診察を受け「広汎性発達障害」と診断されました。

2回生のとき「かがやき」で、京都市ユニ
分けるアルバイトが始まるまで、毎日頭をよ
ぎりました。

アルバイトで、初めてお金を稼いだという自信が生まれました。さらに、自分は単純な作業であれば、さほど苦痛でなく、向いていると思えました。3回生になると、初めて長期のアルバイトを始めました。飲食のバイトで、お客さんの注文にこたえて配膳する作業で、覚えるのに時間がかかりました。また、障害福祉系のボランティアもしました。自分も障がいがあるので、障がいを持っている人の力になれたらと思えました。しかし、自分には福祉業界は向いていないと思えてきました。私は想定外の事態に対応するのが非常に難しく、すぐパニック状態になってしまい、周りの人に迷惑をかけてしまうことがわかりました。

スーパースタッフ協会の「子ども・若者支援室」を紹介してもらいました。ここでは、支援コーディネーターの方と1対1の面談が2週間に1回ほどのペースで行われました。話す時間は1時間くらいでした。主に話したことは、大学生活で抱えている不安・将来への不安などでした。そこで、今までのつらさを話すことで、少し楽になりました。さらに北青少年活動センターの居場所事業に参加し、久しぶりに同世代の人と関わりました。しかし、当時は人と話すことに恐怖を覚えていたので、ユースワーカーの方としか話すことができませんでした。「あなたは、物事を考えすぎて、人と話すのを自分で避けている。だから、一言でもいいから、この事業の参加者に話しかけたらどうか？」とアポイントがされました。接し方を学ぶことによって、少しずつ人への恐怖心が消え、事業の参加者とも話せるようになりました。

2回生の12月には、初めてアルバイトを経験しました。郵便局での年賀状の仕分けでした。きつかけは、本が好きなので、本を買うお金がほしかったこと、自分でお金を稼ぐことによって、自信をつけたからです。はじめはとても不安でした。自分は働けるのだろうか、大きなミスをしないだろうかといったことが、年賀状の仕
自動車
の免許も合宿免許で取りました。合宿は、希望したものの、直前になると、初めての地で、対人関係も自信がなかったので、何度も「行きたくない、行きたくない」と周りの人にグチをこぼしていました。免許そのものは、学科は特に問題ありませんでしたが、運転のほうは、注意力散漫になりやすいので、教官から「独りよがりな運転」「これで大丈夫か？」などと指摘されました。しかし、なんとが、仮免、卒業試験ともに一発で合格することができました。

3回生の3月になると就活が解禁されました。何をしようか全く分かりませんでした。いまも自分はどんな仕事をしたらよいのかを模索し続けています。

振り返って思うのは、得意なことと苦手なことがはっきりしていることです。年賀状の仕分けのアルバイトのように単純な反復作業は得意でも、福祉業界のような、次に何が起こるか予測しにくいのは非常に苦手なことです。

また、想定外に弱いというのは、人と話すとき（特に初対面の人）にも、現れてきます。次にどんな話題が来るかわからないので、どのように対応してよいかわかりません。人の話を聞くことならばできるので、自分から話すというのは苦勞します。でも私は環境が整っていれば、障がいの有無にかかわらず、本来の力を発揮できると今では思っています。



ユースワーカーって何？

～家庭・学校・働く場と若者たち～

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長

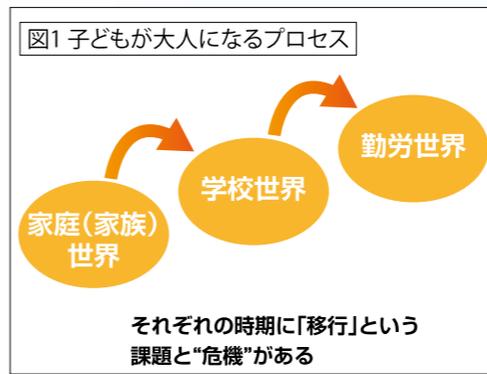
水野篤夫



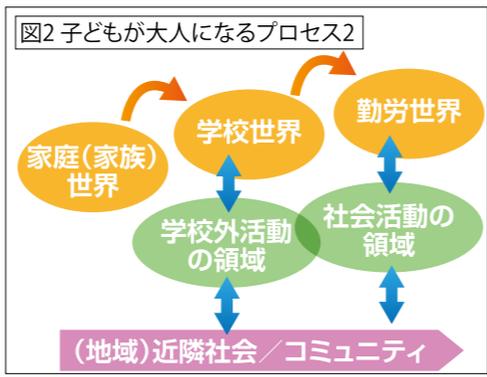
「ユースワーカーは、子どもが責任ある大人として成長していくことを支援します！」と標榜しているのですが、ではどのように「子ども」は「大人」になるのでしょうか。最近の大学生に「君たちは自分を大人と思うか？」と聞くと、ほぼ9割以上が、「自分は大人ではない」と答えるそうです。その理由を尋ねると、「経済的に自立していないから」「自分だけで判断できないから」「親元で面倒見てもらって生活しているから」といったことが挙げられます。

一般的に、子どもが大人になっていく定型的なプロセスを図示すると、図1のように説明されます。親の世話を受けながら家庭中心で育ち始めた子どもも、通学年齢になると学校中心の世界で生きるようになります。しかし、長く続く学校世界も、卒業したり中退

をもって終わり、「若者」や「青年」と言われる年代になるとともに、働くことを中心とする世界に移っていくことを求められます。図1では、勤労世界という言葉で表されています。そして、フルタイムで働き出すと、周囲の人からは「やっ」と〇〇さんも自立したね」と言われるようになる訳です。ここで、



親元から離れて、自活すること、結婚して自らの家庭を持つための条件が出来たと見なされ、それが「大人になる」ということを意味するという考え方です。
しかしながら、家庭(家族)にしろ学校にしろ、それぞれが社会から切り離されて成り立っている訳でないことを見逃してはいけません。育った地域の影響を受けない子どもはいませんし、学校が生徒の生活する地域という基盤の上に成り立っていることは、地域の経済格差によって学校間の学力差が明確にあるという事実から説明することが出来ます。にも拘らず、地域社会の規定性が全体として低下している中で、個々の家庭、地域にある学校に重圧が掛かっているのです。そして、その中で育つ子どもや若者は、「自己責任」で生き抜くことを求められます。それは、働き出した若者を巡る議論にも当てはまるもので、働く場しか持たずに長時間仕事に拘束される働き方をしていると、その場の問題があっても(例えばブラック企業のような働き方をさせられる)、トラブルにあっても(人間関係での問題や、仕事での失敗など)逃げる場が無いことになってしまい、自分一人でそれを抱え込むことになりがちなので、広い意味での社会的な活動に関わって、地域



そうだった。だから友だちもできなかった」と。そんな彼女がしたことは、青少年施設での活動を通して友だちを作っていくことでした。いろいろなグループ(サークル)に参加し、そこで「一命、周囲に気を配り関係づくりの『種蒔き』をしたのでしよう。そんな中で「ここでは友だちもできた。AさんとかBさんとか」と話すようになります。彼女はその後何と何仕事を続けながらさまざまな活動に参加していきました。年齢だけからいえば、もう「大人」と言われるのかもしれないですが、彼女が自立していくためには、家と職場だけではなく、第三の場で経験を積んでいくことが必要だったのです。



「20代鍋の会」(南青少年活動センター)

合っているという話も聞きます。10代の若者にとつての学校外活動の領域と同様、20代など学校を離れた若者にとつても、社会と関わる活動の場を持つ意味は大きいのです。人と人が支え合う力を発揮できなくなっている地域社会と、その中で漂流する若者が、社会とつながっていくことができるための、学校外・働く場の社会活動領域を豊かにしていくことが必要なことだといえるでしょう。子どもが大人になるサポートをする、とこれまでユースワーカーの役割を説明してきたのですが、このことこそが、ユースワーカーの働く領域と役割なのだと思えるようになっていっています。

でしょうか。学校から離れた若者は、働くこと・そこで稼ぐことが重要とされる世界に身を置くこととなります。20代になると地域からも離れる若者も多く、働く場と住まいとの往復で一日が終わるような生活も一般的です。そんな若者にとつても、社会活動の場を持つことは大きな意味を持ちます。昔の話なのですが、ある青少年施設で出会った若者のエピソードを紹介いたします。彼女は20代後半。高卒後、電機部品メーカーの工場のラインで働いていました。ある時彼女が、習い事をしている青少年施設にとつても暗い顔をしてやってきました。私が声を掛けると彼女は、「会社でいじめられている……」と語り始めました。「周りの人に気を配るといって種蒔いてこなかったからいけないんや。学校時代も

ユースサービス協会が運営する施設である青少年活動センターの事業で、「20代鍋の会」という事業がありました。20代限定で平日夕方集まって鍋を囲んでしゃべるといふ事業です。ここには、働いている人も学生も働いていない人も集まってくるのですが、それぞれ悩みや不安、しゃべりたいことがあって、学校でも会社でも家でもないこんな場でこそしゃべれることを楽しんでいきます。非正規で働く女性同士が出会い、その後も連絡を取り合いながら支え

やコミュニティ(必ずしも地縁的なものでなくても)で居場所を持つことがとても重要になっているのです。

また、図1でイメージされる「定型的な」成長過程に乗れないか、はずれてしまう若者も多くなります。不登校という形で、学校世界からある意味「離脱」していく子ども・若者は10万人を超え、減る様子を見せません。働く段階で立ち止まってしまったり、働き始めてからも躓いたり傷ついて働けなくなってしまう若者は60万とも70万とも言われます。そもそも、子どもの貧困率が16%あまりになっっている事実を考えれば、経済的な問題を抱えた家庭が増加し、何らかの支えが必要な子どもや家庭が増えていることは確かでしょう。そこで、定型的な成長を前提とする場を支え補う場がいずれの世界においても必要となっているのです。

そう考えると、家庭・学校・働く場と、ベースにある地域社会・コミュニティと子どもや若者との間にあって両者をつなぐ活動が、今とても重要になってきています(図2の学校外活動の領域・社会活動の領域)。そして、そこそがユースワーカーの活動領域です。前回は中高生年代の話をしました。が、働く場における若者はどうで



知不如学 学不如楽 楽在其中 享在其境

～知るより学ぶ 学ぶより楽しむ 楽しみは其中にあり その境地を悟る～

語学教室を通して、より広く、深く中国文化を楽しんでいます。就学前のお子さんの鉛筆の持ち方から運筆、シニアの方には四書五経や中国古代からの教え、皇帝内経にもとづいた季節の養生法など幅広く学んでいます。

長岡京バンビオ教室・四条教室・国際交流会館教室・御陵教室など

詳しくはHPをご覧ください

株式会社 学楽 〒600-8431 京都市下京区善長寺町 131 西澤ビル 301

TEL : 075-777-7711 E-Mail : gakuraku@ae.auone-net.jp http://www.haowenyuan.com/

横浜赤レンガ倉庫にて



横浜探訪 若者支援の現場へ



若者支援の現場は、いま全国で多様な展開を見せています。なかでも、子どもの貧困対策や就労移行の取組みは、地域ごとに違うものの、全国的な課題として社会の関心も高まっています。わたしたちはいま、社会の要請と現場の課題に対して、「ユースサービス」の理念のもとどんな展開をしていくべきか、中長期的な展望を模索しています。

今年4月15日から16日色鮮やかな花に魅せられながら、地域特性や独自のアイデアを活かした団体からお話を聞くべく、横浜を訪ねました。

大事な循環型の地域連携

京都若者サポートステーション
ユースワーカー 熊澤真理

横浜視察では、公益財団法人よこはまユースや横浜市国際交流協会、地域の企業と連携しながら進路として就職を視野にしている高校生に有給職業体験プログラムを提供されているNPO法人パノラマ代表石井正宏さんの3事業所をまわらせていただきました。横浜の青少年育成、貧困層に学習支援だけでなく生活支援を届ける取り組み、外国籍の子ども達への学習支援取り組み等の話を伺い、「バイターン」を含めた地域連携にこだわった特性が色濃く見えた機会となりました。

横浜はCSRが広がっており、人々に社会貢献的意識がめばえているという話をお聞きしました。バイターンも中間就労においても協力的な企業・事業所があってこそ成り立つもので、企業側との歩み寄り方を考えさせられました。石井さんのお話の中では、様々な事業展開を実現していくために大人達が繋がり協力の輪を広げていくことが大切であるということでした。今回の横浜視察を通してやはり地域性を活かした結びつきのある事業展開が大事だと確信しました。また、コミュニティ経済からの切り口で循環型にしていくという発想はおもしろい展開をみせるものだと感じ、今後検討していきたいと思いました。

地域の中でユースサービスを

中京青少年活動センター
ユースワーカー 竹田明子

公益財団法人よこはまユースで伺った「寄り添い型支援」事業は、一軒家で、学習支援だけではなく生活力をつける場として事業を展開しています。“放課後格差”の課題が指摘されるなか、家庭でも学校でもない居場所になっていることも意義高い取り組みと感じました。視察で得た知見の一つ目は、いかに若者の生活時間や生活圏内で社会とつながっていくための事業を行っていくか、二つ目は地域福祉やコミュニティ経済を意図した事業を展開していくかという視点です。

いま、わたしは活動センターを拠点としない「地域の中でのユースサービス」の可能性や位置づけを整理し、実践を模索していきたいと考えています。若者を軸に、若者の成長と社会への接続が保障される地域やコミュニティ、持続可能な事業としてお金が回っていく仕組みづくりはどう展開できるだろうか。今回の訪問では、そのための大きな示唆を得られました。横浜市国際交流協会で行われていた「外国につながる子どもたちへの学習支援」事業では、今後、地域の中で働くロールモデルをどう作っていくかが一つの課題だと伺いました。若者が必要としていること、これからの社会に必要なと思われる取組みを、地域の中で展開していきたいと思っています。

今年も開催します!! ユースシンポジウム 2015「人生はサバイバル!!!」

あなたにとっての“サバイバル”って何ですか？

今回のユースシンポジウムでは、生き方の多様化の中でさまよう若者の“葛藤”や“選択”に焦点をあてて、考えていきたいと思えます。

第1部にはフォトジャーナリストとして歩み始めた方とシェアハウスを起業した方、2人をゲストに迎え、どのように自分の道を選び取ってきたのか、ターニングポイントや葛藤などをお話いただけます。

第2部は、若者同士や若者と他年代の方が、出逢い、語らう対話型のプログラム3年目を迎えます。

今年度は実行委員会形式で『トークフリマ』を企画してき

ました。

人生はサバイバル!!!というタイトルのもと、恋愛や人間関係、就職など、若者にとっての“サバイバルカテゴリー”を設定して、いろいろな価値観で考えてみたいと思えます。



日時：9月27日(日) 10:00~17:30
場所：京都市下京青少年活動センター
内容：第1部 対談会「これが私の生きる道」
第2部 トークフリマ
「reconsider: 本当の自分」
第3部 交流会「また逢う日まで」
参加費：30歳までの方 無料
31歳以上の方 500円
問合せ・申込み先
公益財団法人 京都市ユースサービス協会
まで電話かメールでお問合せください。
※要事前申込み、先着100人。定員に満たなかった場合は当日参加を受け付けます。
☆公式FACEBOOK☆
<https://www.facebook.com/youthsymposium>

ご寄付いただきました

【平成27年3月~7月まで】

牛田 順子 様/虎田 悦子 様/しもせい昔のボランティアスタッフ一同 様/山田 高士 様/松井 憲昭 様/LIVE KIDS 新風館 来場者の皆様/江田 努・薫 様/三光商事株式会社 様/オニム倶楽部 西村 秋男 様
合計額：223,058円

いただいたご寄付については、当協会の取り組みに活用させていただきます。ありがとうございました。

平成21年施工 二条城茶室香雲亭

「古き良き物を次の世代に残し
伝えていきたい。」
そう願い、私たちは日々文化財や
京町家の修復に努めています。

株式会社 武村工務店

明治28年設立

私たちは若者の活動を
応援しています。

〒604-0933
京都市中京区御幸町通二条下る山本町432
TEL:075-231-2881・FAX:075-231-9422
E-Mail: info@takemura-k.com・URL: www.takemura-k.com

平成18年施工 山崎聖天観音寺
聖天堂

ユースがゆら版

事業案内

「僕の東京日記」を演じます！

「境遇も個性もバラバラの17人が、ひとつの場所に集まる。物語と自分たちが重なるからこそ演じる意味がある気がするんだ」。演劇ビギナーズユニット22回目の夏。今年も5月から講座がスタートしました。はじめての演技に緊張しながらも、真剣な眼差しで講座に取り組んでいます。17人の創りあげる舞台がみなさんの心に届くことを願っています。修了公演「僕の東京日記」は、9月5日(土)13時、18時半、6日(日)13時の3回、東山青少年活動センター創造活動室で行います。予約など問い合わせは東山青少年活動センターまで。



やませいカフェ始動！ ご協力をお願いします。

新たに料理室の一角にできたカフェコーナー「やませいカフェ」。「手づくりパフェ大会」や「おにぎり大会」など、地域の方にもご協力を頂きながら様々なカフェをお試し開店中です！
青少年の育ちを食の面から支える取り組みに関心のある方は、ぜひご協力をお願いします。



事業レポート

宵山のごみゼロ作戦に参加

京都市ユースサービス協会から職員10人が参加しました。屋台の使い捨て食器をリユース食器に変えようという取り組みは、今年で2年目。当日はコアスタッフの一員として、全国から集まったボランティアのみなさんと一緒にゴミの分別やリユース食器回収の声をかけるなど運営面の協力を行いました。



今年も農業はじめました！

今年で4年目を迎える「野菜づくりから仕事に近づく」が5月から始まっています。このプログラムは、就労体験の一環として、農作業と販売までを行っています。野菜の売り上げは、参加者で配分しますので、どうしたら収入増になるか、皆で考えています。一番有効なのは、美味しい野菜を販売しようという気持ちをもって作ることであり、無農薬で化学肥料を一切使わずに手間暇かけて作っています。

今年は5月の高温、7月の台風や大雨など、人間にも作物にもつらい条件ですが、7月からきゅうりの販売が始まり、8月からはオクラ、インゲン、ナス、トマト、トウモロコシの販売予定になっています。もし興味がありましたら、火、木、土曜日の14時くらいから中京青少年活動センター入り口前で販売を予定していますので、買いに来ていただけたらと思います。ただし、天候等収穫ができない場合がありますので、サポートまでご確認していただけたらと思います。



開館50周年を迎えました！！

伏見青少年活動センターは50周年記念事業として6月末、「日・タイ・カルチャー・フェア」を開催しました。50周年の年表には、勤労者対象の施設から、困難を抱えた若者への就労支援を含めた青少年施設への変化を軸に、特徴的な写真を加えました。掲示の年表を前に、かつての青年の家利用者が懐かしそうに見入っていました。

小野郷で田植え体験

北青少年活動センターこども自然体験クラブでは、5月17日(日)NPO法人「京都・北山悠悠自然塾」の協力で、北区小野郷地域の休耕田で田植え体験をしました。ボランティアが地域の方々との連絡を取り合い、活動内容を考えました。プログラムの厚みが増すことを実感する機会となりました。



お好み焼きを囲んで語らい

南青少年活動センターでは、5月22日(金)に「20代話せるプログラム お好み焼きの会」を実施しました。お好み焼きは参加者の提案で、好きな具材をピュッフェ形式で乗せました。みんなで食事をしながら、参加者それぞれの近況や趣味の話で盛り上がりしました。



民間団体の子ども・若者支援促進事業

子ども・若者支援室では支援活動の一層の拡がりを目指して、NPO等民間団体の支援事業を公募し、優れた事業への助成を行っています。今年度は事業開始以来最多の11団体に決まりました。団体は11月29日開催(予定)の交流会にも参加予定です。

しもせいチャレンジ☆キッズ

7月の活動は、「川遊び&魚のつかみどり」を体験しに、滋賀県南郷水産センターへ行きました。「食べ物は生き物」を学びのテーマに、自分達で捕まえたアユをその場で焼いて食べました。その他にも、子どもの腕ほどもある棒麩をコイにあげるなどして楽しむだけでなく、「食」と向き合う活動になりました。

読者の声

ユースサービスという考え方に新鮮さと期待をもって関わらせてもらったのが、25年前、初代活動センターがいまも懐かしいです。機関誌を通じて、4半世紀を経ても変わらない若者の感性とパワーを感じています。これからもYSの役割と展開に期待します。

(公財)京都市国際交流協会 岩佐 仁己

7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター

住所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
TEL：075-541-0619
FAX：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター

住所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
TEL：075-671-0356
FAX：075-671-0360
URL：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター

住所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
TEL：075-451-6700
FAX：075-451-6702
URL：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター

住所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町42
TEL：075-593-4911
FAX：075-593-4916
URL：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター

住所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
TEL：075-611-4910
FAX：075-604-4910
URL：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター

住所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町262
TEL：075-231-0640
FAX：075-231-1231
URL：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター

住所：〒600-8202
京都市下京区川端町13
TEL：075-353-7750
FAX：075-353-7740
URL：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

発行 公益財団法人 京都市ユースサービス協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262 京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681 fax：075-231-1231 E-mail：office@ys-kyoto.org

HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所 デザイン：自然堂株式会社



Catch Your Dream

夢をかなえる学校がある!

— 普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

選べる4つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
- フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
- 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
- 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。

※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

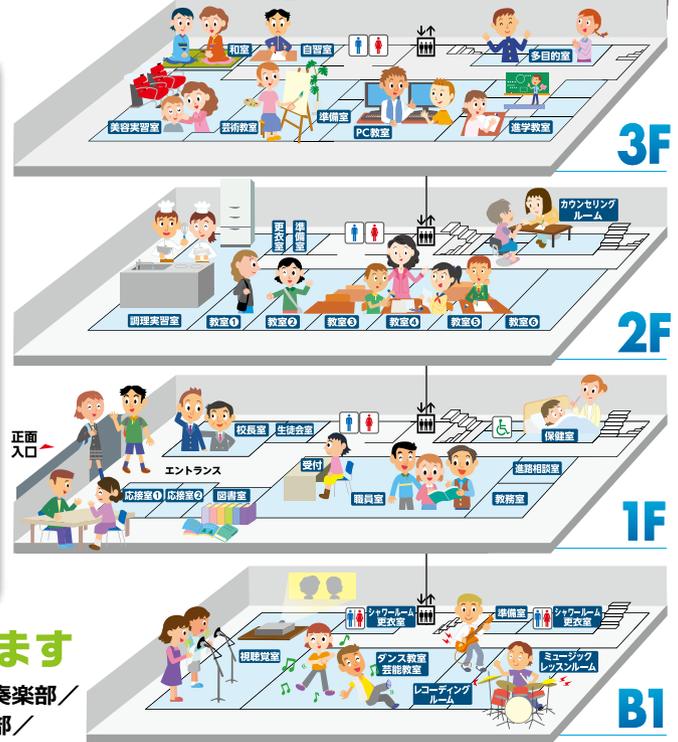


選べる16の専門コース

Special×Course

- 進学
- 調理・製菓
- 声優
- IT
- 理容師・美容師（国家資格取得）
- 動物
- スポーツ
- 外国語
- 心理・教育
- ダンス
- 美容
- ミュージック
- 芸術
- 芸能
- ファッション
- 保育

※希望者のみ選択できます。 ※専門コースは毎年変更できます。
※卒業単位に20単位まで認定できます。



平成 25 年 4 月新校舎完成

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部 / 料理部 / 写真部 / ASG部 / 演劇部 / 茶道部 / 吹奏楽部 / 軽音部 / 声劇部 / 手芸部 / 健康増進部 / Duel Masters部 / 天文部 / テニス部 / 卓球部 / バスケットボール部 / フットサル部 / 総合運動部

生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。

私たちは青少年育成を応援しています!

通信制・単位制・普通科



京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町406 番

TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

